



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月31日

上場取引所 東大

上場会社名 ワタベウェディング株式会社

コード番号 4696 URL <http://www.watabe-wedding.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡部 秀敏

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 花房 伸晃

TEL 075-352-4111

四半期報告書提出予定日 平成23年2月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	39,263	△1.9	1,711	△8.1	1,598	△19.4	724	△20.0
22年3月期第3四半期	40,029	18.7	1,862	△41.3	1,982	△35.9	906	△36.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	73.16	—
22年3月期第3四半期	91.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	25,685	15,038	58.5	1,516.93
22年3月期	25,864	14,976	57.9	1,510.94

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 15,031百万円 22年3月期 14,972百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
23年3月期	—	15.00	—		
23年3月期 (予想)				15.00	30.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,100	2.0	2,000	12.8	1,900	0.4	700	△9.5	70.64

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期3Q	9,909,400株	22年3月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	23年3月期3Q	309株	22年3月期	177株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期3Q	9,909,158株	22年3月期3Q	9,909,223株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、平成22年5月7日に公表いたしました内容から変更しております。詳細につきましては、平成22年10月29日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) セグメント情報 .....	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結結果計期間におけるわが国経済は、景況感の回復に鈍化懸念が見受けられるなど先行きの不安を払拭できない状況が続いておりますが、当ブライダル業界におきましては、少子化による暫減傾向はみられるものの、70万台前後の婚姻届出組数で安定的に推移しております。

このような状況下において、当社グループは、ますます個性化・多様化を深めるお客様のニーズに応えるべく、トータル・ブライダル・ソリューションの実現とグローバルな視点であらゆるサービスを融合させることで、「お客様満足度の向上」と「感動の最大化」を図り、ブライダル、アニバーサリーにおいて、すてきな生活文化を創造すべく積極的に事業展開を行ってまいりました。

「リゾート挙式」におきましては、平成22年11月、米国ハワイ州に『ハワイなのに叶う日本品質のおもてなし』をテーマに、ハワイ初のウェディングリゾート「ホヌカイラニ コオリナ・プレイス・オブ・ウェリナ」をオープンいたしました。

営業施策としましては、「新宿挙式サロン」を平成22年12月に、新コンセプトのフラッグシップショップ「ミラザ新宿店」として移転・リニューアルオープンし、利便性の向上による更なる集客力アップと新コンセプトに基づいた店舗作りによるイメージの一新を図りました。

以上の結果、当社グループの業績は、主に「ホテル・国内挙式」における挙式取扱組数の減少により、売上高39,263百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業利益1,711百万円（同8.1%減）、為替差損等の影響により、経常利益1,598百万円（同19.4%減）、資産除去債務会計基準適用により、四半期純利益724百万円（同20.0%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント内及びセグメント間の取引消去前となっております。

#### ① リゾート挙式

婚礼単価の増加により、売上高は22,348百万円（前年同四半期比2.8%増）、営業利益は1,268百万円（同23.6%増）となりました。

#### ② ホテル・国内挙式

メルパルクの挙式取扱組数が対前年同四半期比で下回った結果、売上高は22,656百万円（同5.1%減）となり、販売管理費の削減に取り組んだものの、営業利益は454百万円（同43.6%減）となりました。

(注) なお、第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しております。前年同四半期比較に当たっては、前第3四半期を新セグメントの区分に組み替えて表示しております。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 資産、負債及び純資産の状況について

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ941百万円増加し、9,342百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,119百万円減少し、16,343百万円となりました。これは主に海外の挙式運営施設を売却したことにより有形固定資産及び無形固定資産が減少したことによるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ178百万円減少し、25,685百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ858百万円減少し、7,943百万円となりました。これは主に未払法人税等が減少したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ618百万円増加し、2,704百万円となりました。これは主に資産除去債務の計上によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ239百万円減少し、10,647百万円となりました。

純資産残高は前連結会計年度末に比べ61百万円増加し、15,038百万円となりました。これは四半期純利益724百万円や配当金297百万円の支払による利益剰余金の増加427百万円、為替相場の変動による為替換算調整勘定の減少305百万円によるものであります。

## ② キャッシュフローの状況

当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが1,771百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが581百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが184百万円の支出となり、この結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）期末残高は、5,106百万円（前年同四半期は4,664百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は1,771百万円（前年同四半期比30.6%増）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益1,233百万円のほか、主に減価償却費1,423百万円、法人税等の支払額825百万円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は581百万円（同69.5%減）となりました。これは主に有形固定資産の取得1,453百万円、有形固定資産の売却による収入996百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は184百万円（前年同四半期 277百万円の収入）となりました。これは長期借入れによる収入500百万円がありましたが、短期借入金の純増減額による支出額121百万円、長期借入金の返済による支出232百万円、配当金の支払額297百万円等があったことによるものであります。

## （3）連結業績予想に関する定性的情報

現時点におきましては、平成22年10月29日発表の業績予想を変更しておりません。

## 2. その他の情報

### （1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### （2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

特有の会計処理

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

### （3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### ・会計基準等の改正に伴う変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ43百万円、税金等調整前四半期純利益は436百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は631百万円であります。

#### ・表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,505	4,241
売掛金	1,500	1,748
商品及び製品	237	200
仕掛品	21	27
原材料及び貯蔵品	624	615
その他	1,485	1,595
貸倒引当金	△32	△27
流動資産合計	9,342	8,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,255	6,104
土地	2,602	2,207
その他（純額）	2,283	3,251
有形固定資産合計	11,141	11,562
無形固定資産		
投資その他の資産	1,022	1,436
投資その他の資産		
差入保証金	3,535	3,692
その他	675	803
貸倒引当金	△31	△32
投資その他の資産合計	4,179	4,463
固定資産合計	16,343	17,462
資産合計	25,685	25,864
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,832	1,874
短期借入金	1,082	909
未払法人税等	59	517
前受金	1,947	2,317
賞与引当金	268	670
その他	2,752	2,512
流動負債合計	7,943	8,802
固定負債		
長期借入金	1,508	1,533
退職給付引当金	170	159
資産除去債務	571	—
その他	453	392
固定負債合計	2,704	2,085
負債合計	10,647	10,887

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,038
利益剰余金	8,306	7,878
自己株式	△0	△0
株主資本合計	16,520	16,092
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15	17
繰延ヘッジ損益	△28	31
土地再評価差額金	△906	△906
為替換算調整勘定	△568	△263
評価・換算差額等合計	△1,488	△1,120
少数株主持分	6	4
純資産合計	15,038	14,976
負債純資産合計	25,685	25,864

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	40,029	39,263
売上原価	13,912	13,413
売上総利益	26,116	25,849
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	8,103	8,158
賞与引当金繰入額	409	350
退職給付費用	110	105
その他	15,630	15,524
販売費及び一般管理費合計	24,253	24,138
営業利益	1,862	1,711
営業外収益		
受取賃貸料	58	49
受取補償金	—	49
その他	144	79
営業外収益合計	202	177
営業外費用		
支払利息	20	20
開業費	—	92
賃貸費用	18	—
為替差損	—	115
その他	43	61
営業外費用合計	82	290
経常利益	1,982	1,598
特別利益		
固定資産売却益	—	163
特別利益合計	—	163
特別損失		
施設店舗整理損	142	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	392
その他	26	135
特別損失合計	169	528
税金等調整前四半期純利益	1,812	1,233
法人税等	906	505
少数株主損益調整前四半期純利益	—	727
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△0	2
四半期純利益	906	724



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,812	1,233
減価償却費	1,352	1,423
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△506	△400
受取利息及び受取配当金	△5	△14
支払利息	20	20
為替差損益 (△は益)	△88	△18
固定資産除売却損益 (△は益)	18	△97
売上債権の増減額 (△は増加)	361	240
たな卸資産の増減額 (△は増加)	44	△78
仕入債務の増減額 (△は減少)	△42	△23
前受金の増減額 (△は減少)	△467	△363
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	392
その他	△392	290
小計	2,106	2,604
利息及び配当金の受取額	6	15
利息の支払額	△19	△23
法人税等の支払額	△736	△825
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,356	1,771
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△790
定期預金の払戻による収入	28	408
有形固定資産の取得による支出	△1,703	△1,453
有形固定資産の売却による収入	—	996
無形固定資産の取得による支出	△267	△215
差入保証金の差入による支出	△202	△124
差入保証金の回収による収入	214	201
その他	27	396
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,903	△581
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	40	△121
長期借入れによる収入	800	500
長期借入金の返済による支出	△242	△232
配当金の支払額	△297	△297
その他	△23	△33
財務活動によるキャッシュ・フロー	277	△184
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△136
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△276	868
現金及び現金同等物の期首残高	4,940	4,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,664	5,106

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内・海外のリゾート地における挙式サービスを行う「リゾート挙式」と国内のホテルにおける挙式・宴会・ホテル・宿泊サービスを行う「ホテル・国内挙式」の2つを主たる事業として、この報告セグメントごとに包括的な経営戦略を立案し、事業活動を展開しております。

「リゾート挙式」は、主として当社の国内店舗や旅行会社を集客窓口として、米国ハワイ州や沖縄などの国内外のリゾート地における挙式サービス並びにウェディングドレス・タキシード・写真アルバム等の挙式に係る付帯サービスの製造販売も行っております。「ホテル・国内挙式」は、目黒雅叙園やメルパルクに代表される国内のホテルにおける挙式・宴会・レストラン・宿泊サービスを提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	16,757	22,505	39,263	—	39,263
セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,590	150	5,741	(5,741)	—
計	22,348	22,656	45,004	(5,741)	39,263
セグメント利益	1,268	454	1,723	(11)	1,711

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位: 百万円)

利益	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	13
棚卸資産等の未実現利益消去	△25
合計	△11

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(参考) 前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	16,280	23,748	40,029	—	40,029
セグメント間の内部売上 高又は振替高	5,455	130	5,585	(5,585)	—
計	21,736	23,878	45,614	(5,585)	40,029
セグメント利益	1,026	805	1,831	30	1,862

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

利益	前第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	33
棚卸資産等の未実現利益消去	△3
合計	30

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。